



外国人にも知ってほしい！防災とごみ出しルール！ ～ ボランティア日本語教室で説明会を開催～

と き 10月30日(水) 10時～正午 ところ 練馬区役所会議室(練馬区豊玉北6-12-1)

30日、練馬区役所で「ボランティア日本語教室」に参加している外国人(8か国、19人)を対象に、地震や災害時の行動を学ぶ「防災説明会」と、ごみの分別ルールを学ぶ「ふれあい環境学習」が開催された。

生活環境や文化の違いから、外国人にとって、日本特有の防災やごみの分別ルールなどを理解することが難しいことから、外国人の集まる機会に合わせて学習会が企画されている。

はじめに震災対策担当課の職員から地震の仕組みについて説明があり、クイズ形式で地震発生時の対応を学んだ。続いて清掃事務所の職員が、ごみの出し方を説明。模擬ごみを使ったゲーム形式の分別体験を通して、楽しみながらごみの分別のルールを学んでいた。

区はこれまで外国人を対象に、地震への備えや基礎知識を伝える活動や、ごみの分別やリサイクルについての啓発活動を行ってきたが、両方を同時に開催するのは今回が初めて。区の担当者は、「日本で生活するルールや知恵を身につけ、災害への備えやリサイクルの大切さなどについて、家族で話し合うきっかけにしてほしい」と話している。



防災についての説明の様子



ごみの分別の説明の様子

【外国人向けの防災・環境学習の目的】

練馬区には、現在、約13,000人の外国人が暮らしている。区が外国人に行った調査では「日本語で困ること」という項目で、「日本語の新聞やお知らせを読むこと」や「役所や病院での説明を理解すること」と回答する割合が最も高かった。外国人にとっては、生活のなかで目にする防災やごみの分別のルールや日本語表記は、意味を理解することが難しい。そこで今回、ボランティア日本語教室の参加者を対象に、日本語の勉強をしながら、生活の知識も学ぶ事業が開催された。教室での時間を確保することの困難さや通訳者の手配の関係から、今回は二つの学習を同時に実施することになった。

【学習の内容】

地震のない国から来た人にとって、災害時の対応は全く未知の世界。そこで、地震がどうして発生するのか、また、地震発生時の行動の仕方を、震災対策担当課の職員が講義。職員は、日本語にあまり慣れていない参加者にも配慮して、「やさしい日本語」で説明した。講義の最後は、「防災クロスロードゲーム」を行い、災害時にどんな行動をしたらよいか、参加者全員で考えた。

後半の環境学習では、清掃事務所の職員が練馬区のごみの分別のルールについて説明。実際に分別体験をしてもらうために、模擬ごみが配られ、「燃えるごみ」、「燃えないごみ」、「資源」の3つの箱に分別を行った。外国人たちは、正解の箱に模擬ごみを入れて歓声を上げたり、考え込んだりしながら、ゲーム感覚でごみの分別を学んでいた。

参加者は、「ごみの分別の仕方がわかった」「自分たちの出した資源が、どのようにリサイクルされるかよくわかった」などと笑顔で話していた。

【ボランティア日本語教室】

「ボランティア日本語教室」は、区の日本語講師ボランティア養成講座を受講した卒業生などが講師となり、区内各所で週1回の教室を開催している。現在、区内に17の教室があり、レベル別に小グループに分かれて日本語を学習している。今回は区役所の会議室を会場としている教室に区が呼びかけ、日本語教室の活動の一環として説明会が実施された。

【問い合わせ】区民生活事業本部 地域文化部 地域振興課 事業推進係 電話03-5984-1523